

☆年間第21主日(8月21日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (イザヤの預言 66章 18-21節)

主は言われる。わたしは彼らの業と彼らの謀のゆえに、すべての国、すべての言葉の民を集めるために臨む。彼らは来て、わたしの栄光を見る。わたしは、彼らの間に一つのしるしをおき、彼らの中から生き残った者を諸国に遣わす。すなわち、タルシシュに、弓を巧みに引くプルとルドに、トバルとヤワンに、更にわたしの名声を聞いたことも、わたしの栄光を見たこともない、遠い島々に遣わす。彼らはわたしの栄光を国々に伝える。彼らはあなたたちのすべての兄弟を主への献げ物として、馬、車、駕籠、らば、らくだに載せ、あらゆる国民の間からわたしの聖なる山エルサレムに連れて来る、と主は言われる。それは、イスラエルの子らが献げ物を清い器に入れて、主の神殿にもたらすのと同じである、と主は言われる。わたしは彼らのうちからも祭司とレビ人を立てる、と主は言われる。

第二朗読 (ヘブライ人への手紙 12章 5-7, 11-13節)

皆さん、あなたがたは、子供たちに対するようにあなたがたに話されている次の勧告を忘れていません。

「わが子よ、主の鍛錬を軽んじてはいけない。

主から懲らしめられても、力を落としてはいけない。

なぜなら、主は愛する者を鍛え、子として受け入れる者を皆、鞭打たれるからである。」

あなたがたは、これを鍛錬として忍耐しなさい。神は、あなたがたを子として取り扱っておられます。いったい、父から鍛えられない子があるのでしょうか。およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。だから、萎えた手と弱くなったひざをまっすぐにしなさい。また、足の不自由な人が踏み外すことなく、むしろいやされるように、自分の足でまっすぐな道を歩きなさい。

福音朗読（ルカ 13 章 22-30 節）

そのとき、イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって進んでおられた。すると、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。イエスは一同に言われた。「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってからでは、あなたがたが外に立って戸をたたき、『御主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者が知らない』という答えが返ってくるだけである。そのとき、あなたがたは、『御一緒に食べたり飲んだりしましたし、また、わたしたちの広場でお教えを受けたのです』と言いだすだろう。しかし主人は、『お前たちがどこの者が知らない。不義を行う者ども、皆わたしから立ち去れ』と言うだろう。あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブや すべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分は外に投げ出されることになり、そこで泣きわめいて歯ぎしりする。そして人々は、東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。そこでは、後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

先週より幾分かしのぎやすくなりましたね。コロナ感染症は依然として猛威を振るっています。どうぞお気をつけてお過ごしください。以前に実らないイチジクの樹の話がありましたが、教会にはマスカット系のぶどうの樹があり、幼稚園には柿木がありましたので、さっそく肥料をたくさんやりました。その後どうなったかと言いますと、ぶどうの樹にはたくさんのブドウの房ができ、柿木にも実がたくさん付きました。あとは味がどうなるかです。まだ味見の時期ではないのですが、どうでしょうかね。イエスさまに報告しなければなりませんね。とにかく、ぶどうの樹を切らずに済みそうです。今日の朗読のテーマは「神の国」に招かれている私たちです。私たちはこの招きにどうこたえているのでしょうか。

第一朗読（イザヤの預言 66章 18-21節）

解説ではこのイザヤ書の箇所はイザヤ書の最終章で、神の栄光が現われ、散らされた民が集められる様子が語られています。当時の状況ではイスラエル付近の人々や、今で言う中近東当たりのことを語っているようですが、現在の私たちにとっては世界各地の人々が神の国に導かれると言っているのです。そしてそのメッセージは「一つのしるし」によって発せられると言っています。すなわち救い主キリストによって、全世界に向けて発せられているのです。私たちはそのメッセージを聞いています。神はすべての人に語り掛けています。私はどのようにそれを受け取っているのでしょうか。

第二朗読（ヘブライ人への手紙 12章 5-7. 11-13節）

この手紙の著者は「主の鍛錬」について励ましを語っています。すなわち、主からの試練に対し忍耐して、力強くありなさいと述べています。主は愛する者をもっと高みに導くために鍛えられるのです。現代では何ことも簡単便利になってきましたが、神を愛するという道には近道はなく、忍耐強く歩むことが大事なのです。萎えた手と弱くなった膝を真っすぐにしなさいと言っています。萎えた手とは何でしょう。それは少なくなった愛の業ではないのでしょうか。弱くなった膝とは何でしょう。それは、忍耐強く神の道を歩む力が弱くなっていることを指すのではないのでしょうか。筋肉は一般的に言えば、その筋肉をよく使うことによって衰えが防げ、また増えるものです。祈りの筋肉、愛徳の筋肉を鍛えましょう。

福音朗読（ルカ 13章 22-30節）

「主よ、救われるものは少ないのでしょうか」という問いかけに、イエスは「狭い戸口から入るようにしなさい」と答えられます。質問とかみ合っていないようですがどうしてでしょう。また「入ろうとしても入れない人が多いのだ」とも言われています。入れる人が多いと人々は安心し、入れる人が

少ないと不安になるそのような問題ではないと言いたいのではないでしょうか。今置かれている現状に満足し努力を怠るときに、「お前たちがどこのものか知らない」と言われ、入れるものだと自信過剰になっているときに「自分は外に投げ出されることになる」と言われるのです。狭い戸口とは常に警戒して、意識して生活しなさいということでしょう。また召し出された順番は問題ではないのです。召し出しは神の選びですから、神の国に入ることそのものが大事なのです。



ぶどうがたくさん実りました

P.S.

8月も終盤に差し掛かっています。少し暑さが和らいできていますが、ここから夏の疲れがどっと出る時期ですので、十分な睡眠と栄養ある食事を意識しましょう。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光